

令和4年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会協議録

1 会議の概要

- (1) 開催日時 令和4年8月1日(月) 19:25～20:30
- (2) 開催場所 福山ニューキャッスルホテル16階ふじの間
- (3) 出席者
 - 出席委員
内藤賢一委員長、石原広一副委員長、工藤美樹委員、前田嘉信委員、
福永裕文委員
 - 欠席委員
なし
 - 説明のため出席した者
(府中市病院機構)
多田敦彦 理事長、小森祐一郎 事務局長、八幡憲和 事務長
(府中市)
小野申人 市長、唐川 平 健康福祉部長、大森健司 医療政策課長
伊達武司 医療政策係長、才木雅人 主事

2 会議の内容

- (1) 協議事項
令和3年度の業務実績評価(案)について
- (2) 報告事項
令和4年度年度計画について(報告)

~~~~~

**唐川健康福祉部長(以下「進行」という。):** それでは、若干定刻よりは早いですが、  
只今から令和4年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を開会いたします。

午後7時25分

~~~~~

進行: 委員の皆様におかれましては、大変お忙しい中、本評価委員会に御出席を賜り、誠にありがとうございます。

私は、府中市健康福祉部長の唐川と申します。

議事に入りますまでの間、私が進行させていただきます。円滑な進行を心掛けてまいりますので、どうぞよろしく願いいたします。

まずはじめに、評価委員会の皆様を御紹介いたします。広島大学病院病院長 工藤美樹委員、府中地区医師会会長 内藤賢一委員、広島県健康福祉局総括官 福永裕文

委員、岡山大学病院病院長 前田嘉信委員、府中市監査委員 石原広一委員。

以上の皆様でございます。工藤委員、福永委員には今回から評価委員に御就任いただいております。皆様どうぞよろしくお願いいいたします。

委員の皆様の御出欠につきましては、ただ今御案内ささせていただきましたように、すべての委員に御出席をいただいております。ありがとうございます。

それでは本日の会議資料の確認をさせていただきます。事前にお送りをさせていただいておりますが、次第、委員名簿、資料1から資料6、参考資料1から参考資料4。それぞれでございますでしょうか。

不足の資料等がございましたら、会議途中でも構いませんので、事務局までお知らせいただければと思います。

なお、本日の会議につきましては、事前にお知らせしておりますように、報道関係者の傍聴を許可しております。現時点でまだ出席をされておられません、途中で来られた場合には、傍聴を許可しておりますので、あらかじめ御了承いただきたいと思っております。

~~~~~

**進行：** それでは、開会にあたりまして、小野市長から御挨拶を申し上げます。

**小野市長：** 委員の皆様には、何かとお忙しい中、地方独立行政法人府中市病院機構の評価委員会に御出席をいただきまして、誠にありがとうございます。

また、平素より、府中市の医療行政に対しまして格別の御高配を賜り、この場を借りて厚くお礼を申し上げる次第でございます。本当にありがとうございます。

さて、コロナによる各行事等の自粛から、徐々に再開されはじめた矢先に、ここに来て急激に感染が拡大し、過去最多を更新している状況となり、今後の感染状況等、大変心配している状況でございます。

医療体制の逼迫が心配される中、医療関係者の方々や関係機関の方々の皆様には、大変な御負担がかかっているのではないかと考えています。御尽力に、改めて感謝を申し上げます。

府中市病院機構におきましても、これまでワクチン接種への積極的な御協力をいただくとともに、府中市民病院における陽性患者の受け入れ、感染が疑われる発熱患者の診察やPCR検査の実施など、新型コロナウイルス感染症への一連の対策に献身的な対応をいただいております。府中市といたしましても、感謝をいたしますとともに、公的病院としての両病院の存在のありがたさを改めて感じているところです。行政も引き続き連携を図りながら取り組みを進めてまいりたいと思っております。

本日の評価委員会につきましては、市といたしまして、こういった取組なども含めまして令和3年度の実績の評価をいたしましたので、その評価案に対しまして委員の皆様からの御意見を頂戴し、最終の成案といたしたいと考えております。

委員の皆様方には、府中市病院機構の今後の業務運営なども含め、活発な御議論をいただきますようお願いを申し上げまして、簡単ではございますが、開会にあたっての御挨拶とさせていただきます。

本日は、よろしくお願いいたします。

~~~~~

進行： 続きまして、次第のとおり委員長の選任に移りたいと存じます。

地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会条例第5条の規定により、委員長及び副委員長の選任は、委員の皆様の互選により定めるとされておりますが、如何いたしましょうか。

石原委員： よろしいですか。

失礼します。委員長の推薦ということですが、地域で医療に携わっておられます、府中地区医師会長の内藤先生にお願いしてはと思います。いかがでございましょうか。

進行： 皆様、いかがでございませうか。

委員より： 「異議なし」の声あり。

進行： 内藤先生、委員長をお引受けいただけますでしょうか。

内藤委員： はい。

進行： ありがとうございます。それでは内藤委員よろしくお願いいたします。

それでは、内藤委員長には委員長席にお移りいただき、その後御挨拶をお願いいたします。

内藤委員長： 皆さん今晚は。ただ今、評価委員長に選任されました、府中地区医師会長の内藤でございます。

委員の皆様におかれましては、御多用の中、また遅くからの会議開催にもかかわらず、お集まりいただきまして誠にありがとうございます。

工藤委員、福永委員におかれましては、初めての御参加ということで、どうぞよろしくお願いいたします。

今回の評価委員会は、令和3年度の業務実績に関する評価に対する御意見や御助言などをとりまとめていきたいと思っておりますので、委員の皆様の御協力をよろしくお願いいたします。

進行： ありがとうございます。

それでは、以降の進行につきましては、内藤委員長にお願いいたします。どうぞよろしくお願いいたします。

内藤委員長： それでは、続きまして副院長の選任に移りたいと思っておりますが、いかがでしょうか。特に異議はございませんでしょうか。

それでは、私、委員長といたしましては、前任期において副委員長を勤められま

した石原委員に引き続きお願いしたいと考えておりますが、いかがでしょうか。

委員より： 「異議なし」の声あり。

内藤委員長： 御異議ございませんでしたので、石原委員に御就任いただくことにいたします。よろしいでしょうか。

それでは、石原副委員長から御挨拶をお願いいたします。

石原副委員長： 失礼します。副委員長を仰せつかりました石原でございます。

病院機構の関係で府中市の監査委員をさせていただいているということで、委員に選んでいただいているという次第です。どうぞよろしくをお願いいたします。

~~~~~

内藤委員長： それではこれより議事に入ります。協議に入る前に、今年度の評価委員会について、事務局から説明をお願いいたします。

事務局： はい。それでは、御説明させていただきます。

まず資料1を御覧いただきたいと思えます。資料1、『地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会について』と題した資料でございます。ここの縦2、評価委員会の事務所掌、これは主なものを記載しております。この度、本日評価委員会の皆様に御意見をいただきますのは、縦3（1）の令和3年度事業報告についての業務実績の評価に御意見をいただくものでございます。詳細につきましては、それぞれの議事の際に説明をさせていただきます。どうぞよろしくをお願いいたします。

内藤委員長： ありがとうございます。

それでは、以降はお手元の次第に沿って会議を進めたいと思えます。

(1)の『①令和3年度の業務実績評価（案）について』を議題といたします。

まず府中市病院機構から令和3年度の業務実績についての説明を受け、続いて事務局から市の評価案について説明を受けた後、委員の皆様から評価案についての御意見をいただきたいと思えます。

それでは、府中市病院機構から、資料2の事業報告書について簡潔に説明をお願いいたします。

多田理事長： 府中市病院機構理事長の多田と申します。よろしくをお願いいたします。

資料の、事業報告の3ページのところから説明させていただきます。府中市病院機構は、市民の健康と生命を守る地域医療を将来にわたって、持続的に確保していきたいというふうに思っております。その上で安全、安心して暮らすための健康維持、生活の質を高めるための支える医療を目指しております。

一番下のところになりますが、経営成績につきましては、令和3年度は、市からの繰入金を含めた実績は102.6%ということで1億200万円の黒字決算ということになりました。法人設立して10年間で3回目の黒字ということでございます。詳しくはこの辺は事務局長の方から説明してもらえたらと思っております。

4ページの中ほどであります。住民に対して提供する業務の質、ということでございます。新型コロナに対する対応としましては、府中市民病院では発熱の患者さんの診察を受け入れるための外来、それから発病した患者さんの入院についても6床という病床を用意して、時には満床になるくらいの受入れをしております。

北市民病院につきましては、入院受入れはしていませんが、発熱外来、そして両病院ともコロナワクチンの接種については積極的に協力しております。

ただ、残念ながら府中市民病院においては、2月については3週間ほど、診療の停止というようなこともございました。

診療実績、医師の診療体制について、これは5ページの上から3行目あたりですが、府中市民病院では4月に、外科の常勤医が2名、そして内科医師が、1名着任いたしました。

また、令和4年の4月からは泌尿器科医師が1名着任しております。北市民病院につきましては、常勤医師の増加はなかったんですが、4月からは、三次中央病院からの診療支援を受けて、眼科診療を開始いたしました。

また、府中北市民病院の4階、使われていなかった4階を改修しましたサ高住が、全17室の内16室が入居しております。残り1室は万一のためということで、府中市が借り受けていただいているということで、満床の状態です。現在運用しております。

また、業務の運営改善につきましてですが、看護部については昨年度、外部から招聘した看護部のプロジェクトマネージャーが、大きな病院の看護部長を経験したり、病院機能評価の現役のサブリーダーであるということで、両病院の職場環境改善に取り組んできております。

事務部門につきましては、法人外部の公的医療機関から病院事務の経営の実績と経験の深い事務長を招聘しております。それによって、法人の事務局長の業務がスピーディーになされて、事務部門の安定を図っております。

それから次の項目ごとということで、入院・外来の数についてでございますが、6ページの真ん中辺りです。新型コロナの影響がかなり響いておまして、両病院とも、入院患者数は前年度に比べて減少しております。

また、外来数につきましては、府中市民病院では昨年と比べてかなり増加しておりますが、まだ目標には達成していません。

救急に関しましては、府中市民病院については救急科の常勤医師が勤務していることもあって、救急車の受け入れ件数は目標を大きく上回っている状況でございます。

府中北市民病院につきましても、救急告示病院として、60床という小さい病院ながら、かなり頑張った救急車受け入れをしております。

7ページの下から3分の1のところにあります、へき地医療であります。へき地医療拠点病院であります府中市民病院は、準無医地区の巡回診療を月2回継続し

ております。徐々に広がって行って、受診される方が増えてきております。

また、一番下のところにありますが、府中市民病院の婦人科では、女性の健康を生涯にわたって支えるということで、骨粗鬆症とか、更年期障害とかそういったものに対応するチームとして、女性予防医学チームというのを立ち上げております。

また、府中市の行政とのタイアップでいろんな活動も始めておるところでございます。

ちょっと飛びますが、10ページの一番下のところ、先ほど申しましたように、医師招聘については頑張っているところであります。府中市の医師育成奨学金の奨学生については、1年生から、初期研修2年目といったところまで、5名の方が頑張っておられます。地域の医療の担い手になってくれることを願っております。育てていきたいというふうに考えております。

私からは、簡単にですが、以上でございます。

**小森事務局長：** 続きまして府中市病院機構事務局長の小森です。

私からは、法人の経営成績部分について説明をさせていただきます。事業報告書の14ページの中ほどになります。大きい表題の第4、財務内容の改善に関する事項のところからです。結果だけ読ませていただきます。

法人の経営成績は、収支計画の1億4,900万円の黒字目標に対して1億200万円の黒字決算となり、経常収支比率は102.8%の目標に対して実績は102.6%となりました。

コロナ禍において感染対策のための診療や病床制限を実施せざるをえない状況にあっても、新型コロナ患者の入院病床を確保する中、公的病院としての役割を積極的に果たすことで、結果的に黒字決算になりました。

その下の表の中ほどに、市から法人に対していただいている目標があるんですけども、その目標、毎年度市からの負担金収入を含めた経常収支比率が100%を超えること、という目標に対しては、令和3年度については目標を達成しましたということをご報告させていただきます。

ページをめくっていただいて、経営に関する部分でいうと18ページ。報告書の最後になりますけど、第7のところ、短期借入金の限度額該当なしとしております。

ここ数年、法人は12月の賞与の支払いの資金繰り、資金確保のために、毎年度3億円を一時借入れをしてきましたけれども、令和3年度については、それをせずに資金を回すことができました。

第9の剰余金の使途ですが、令和3年度決算によって生じた剰余金については、前期繰越欠損金に充当しましたということで、単年度の経営成績は黒字決算でした。

法人スタートして、令和3年度でちょうど10年を超えたところなんですけど、

法人スタートからの経営成績というところで少し触れたいと思います。

参考資料1です。標題が『財務諸表等』となっている資料なんですけども、これ資料ページ数が多いんですが、触れたいのはですね、1ページ2ページにある貸借対照表です。

ここで触れたいのは、実は令和元年度、資産と負債を比較したところですね、債務超過の状態に陥っておりました。それが令和3年度黒字決算ということで、その債務超過の状態が若干解消されつつあるということを示し報告したいと思ひまして、債務超過の額があと8,000万近くありますけれども、これでいくと令和4年度、今年度ですね。前年度の令和3年と同程度の経営成績が残せば、債務超過の状態は解消されるものと見込んでおります。

あと、触れたいのは14ページ・15ページに、法人の長期借入金の明細の關係の資料があります。14ページの長期借入金の明細は、法人スタートしてからの法人の借入金の状況。右側の15ページは、移行前地方債償還債務の明細ということで、法人スタート時に府中北市民病院が持っていた、市が持っていた借入金をそのまま法人が引き継いでますので、その借入金の状況がどうなってるかというのを、分けて区別して表示してあります。

14ページの表の一番下ですけれども、期首残高が11億7,000万余りありましたけれども、新たな借り入れが6,800万円ほど、償還したのが2億5,400万ほどということで、期末残高が9億8,700万程度になっております。

あと右側の移行前の償還債務については、毎年度1億強の償還を続けております。期首が8億7,500万円。1億100万ほど減少して、期末残高が7億7,300万ということで、北市民病院の方は順調に償還が進んでますので、あと8年ほどで償還が終わるものと見ております。

左側の14ページ方の償還についてもですね、一時期借入額が大きくなったのは、府中市民病院建替移転時に、約10億弱ほどを借り入れましたが、それも令和3年度でほとんど償還が終わりましたので、令和4年度の償還でもう完全に終わります。

よって、これ以降当分の間借入額が増えることはないの、法人全体としては、借り入れがもう増えることなく、償還が続いていくものと見ておりますことを報告させていただきます。

以上で説明を終わります。

**内藤委員長：** ありがとうございます。では、続いて事務局から市の評価案について説明してください。

**事務局：** はい。それでは座ったまま説明させていただきます。

それでは、令和3年度の業務実績に係る評価案につきまして説明をいたします。

市の評価案につきましては、資料3、地方独立行政法人府中市病院機構の令和3

年度業務実績に関する評価案を作成しておりますけれども、説明につきましては、資料4のA4横の概略版で説明をさせていただきます。時間の都合上、主な点のみ説明させていただきます。御了承ください。

まず左側の総合的な評定でございます。ここでは全体的な評価をしております。

まず一つ目。令和3年度、これはコロナ禍の中、発熱症状のある患者ですとか外来診療、必要に応じた検査の実施、また、一部病床を改修した専用病床の受け入れ、入院治療を行うなど、両病院とも公立病院としての役割を積極的に果たしている

と。  
また、両病院とも、ワクチン接種への積極的な協力について評価するとともに、市として感謝の意を表するものでございます。

続いて、先ほどからありますとおり、市からの繰入金を含めた実績で、黒字決算となっております。経常収支比率においても、中期目標の目標値を上回っていること。これは、患者や職員等、院内感染、そうした対策ある中で、使命感を持って仕事をしていただいた病院職員の経営努力の賜物であろうと思っております。

また、医療提供体制の点で言いますと、府中市民病院では、常勤医師の新たな着任などによりまして、令和3年度は独法化以来最も多い常勤医師数となっております。また、府中北市民病院では眼科診療の開設という地域住民の要望に応えることができた点、近隣医療機関の協力・連携により、医療提供体制の整備が図られております。

続いて、府中市民病院婦人科では、医師・看護師・管理栄養士・理学療法士等による女性予防医学チームを立ち上げていただき、女性の健康を生涯にわたって支える取組を進められていることは、たいへん評価するものでございます。

最後の丸のところで、職員の満足度調査を実施されていること。そして、その調査結果を踏まえて、職場環境の改善やハラスメント研修等開催されており、引き続き働きやすい職場環境改善を図るよう、努められたいと考えております。

続きまして資料の右側、勤務の実績に関する評価といたしまして、一番上の『住民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する事項』の実績・成果としまして、救急車受入件数が前年度比較及び年度目標を上回っていることや、巡回診療が継続されていること。また、先ほど説明しました、女性予防医学チームの立ち上げ、独法化以来最も多い常勤医師数の確保が図られたこと。サ高住の入居者増と満足度向上のための取り組みを継続されているというところ。

ただ、課題としまして、災害対策訓練や備蓄を初めとした災害対策が、引き続き課題として残っている点。これにつきましては、市も危機管理面を初めとした必要なサポートを行っていくものでございます。

続きまして、業務運営の改善及び効率化に関する事項でございます。実績・成果



として府中北市民病院を中心として取り組んでおられる上下町の広報誌などの独自の取組は、地域の介護事業所等との綿密な連携・協力をされており、病院を中心とした地域づくりに大変寄与しており、評価するものでございます。

ただ、課題としまして、外来診療表や休診情報など、積極的な情報発信、ホームページのリニューアル等に努めていただきたいと思いますと思っております。

最後に、下段の財務内容の改善に関する事項・その他業務運営に関する重要事項・予算、収支計画及び資金計画につきましては、先ほど御説明したとおり、決算の面では評価できるもの。課題としまして、新型コロナウイルス感染症による今後の病床確保等、令和3年度補助金等が大変高額であったということもございます。補助金等の影響が不透明である中、病院機構として計画的な投資に努めるなど、健全な財政運営に向け努めていただきたいと思いますと思っております。

以上、甚だ簡単ではございますけれども、市の評価案についての説明とさせていただきます。この評価のもととなりました内容につきましては、資料5『説明資料（府中市の評価案について）』に詳細を記載いたしております。

時間の都合上、資料の説明は割愛させていただきますが、御不明な点などは、この資料5を参考にいただければと思います。どうぞよろしくお願いいたします。説明は以上でございます。

**内藤委員長：** ありがとうございます。

それでは、令和3年度の病院機構の業務実績や市の評価について、委員の皆様から御意見をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

福永委員、よろしくお願ひします。

**福永委員：** 両病院におかれましては、コロナの対応であるとか、ワクチン接種など、いろいろ御協力いただきましてありがとうございます。また、今回黒字だということで、ドクターの招聘もされているというところで経営努力されているということで、敬意を表したいと思います。

そういった中、私からは3点ほど、御質問というか確認させていただきたいと思います。

一つ目は救急医療についてであります。救急車の受け入れ件数が大きく上回っているということで、平成30年と比べて倍ぐらい増えていらっしゃる。なぜ増えてるかっていうのはちょっと分からないんですけども、コロナの関係か分かりませんが、そもそも府中消防署としてどのぐらい救急搬送件数があるか、その中で何割ぐらいを府中市民病院で受けていらっしゃるか、そういった応需率みたいなものも、記せば分かりやすいかなと思います。

それから2点目ですけれども、疾病予防の関係で、先ほど来予防医学に力を入れるということで、女性予防医学チームというのが立ち上げられたということござい

ました。骨粗鬆症であるとか、更年期障害ということが先ほど説明ありましたけども、具体的にどういった取り組みをされているかっていうのが、ちょっと記述がなかったように思いますので、その取り組みの内容も書かれるといいのかなと思いました。

それから3点目ですけども、職場環境の関係で、職員満足度調査をされて、職場環境改善をやられたということなんですけども、具体的な改善の取り組み内容も、ちょっと書かれてなかったんで、そういったことも併記すると説得力があるのかなと思いました。以上3点です。

**内藤委員長：** ありがとうございます。今の御質問に答弁いただけますか。

**多田理事長：** まず、救急医療につきましては、なぜ増えたのかということですけど、救急の専門家である麻酔科の、救急麻酔を専門されるドクターが赴任されまして、これまでだったら断っていたような、かなり重症度の高い方でも受け入れてくれると。そういったことがさらにまた救急隊の方に、府中市民病院でも受けてくれるんだという、そういう信頼感になって、受けるようになったと。

また我々も、救急の先生にちょっと手伝ってもらえるというようなこともあって、受け入れの方が少しハードルが大分下がってきてると。

さらにそれが地域の信頼に繋がるという、いい循環ができたんじゃないかと思っています。

府中市のうちどれぐらいをというのは、ちょっとその数字は、申し訳ありません。ありませんです。

また女性医学につきましては、一番力を入れているのが骨粗鬆症であります。できるだけ早い、閉経前あたりぐらいから骨密度の測定をして、そしてそれを栄養とか運動とかそういった指導に持っていくと。また、そういったことが大事だということ地域にも啓蒙するというので、府中市さんの企画した講演会などに婦人科のドクターが行って講演するという活動を行っております。

職場の満足度につきまして、職場の改善については、いろいろとあったんですが、時間外勤務がかなり多かった部署があるんですけど、早出とか遅出を作ることによって。

あとは透析ですね。最後に針を抜くような作業の時まで、どうしても超過勤務になっていたところを、回転を見直して超過勤務が少なくなる、職員の負担も少なくなるような形でというようなこと。

それから、医療安全についてはかなり細々とした注意点とかで、かなり改善できたという感覚でおります。

**福永委員：** ありがとうございます。

**小森事務局長：** 事務局として、事業報告書の書き方作り方について、委員さんにご

指摘いただいたように、もう少し説得力のある具体的な対応を盛り込むように今後努めたいと思います。ありがとうございました。

**内藤委員長：** せっかくよい取組をされているので、しっかり書かれた方がよいかなと思いました。

以上です。ありがとうございます。

**小野市長：** 補足なんですけど、救急車ですね、府中消防の出動件数が平均すると100から120です。で、ほぼ半分ですから、市民病院の方で40から50件は受け入れていただきますので、率とすれば4割から5割ぐらいはまず市民病院に入っ

ていただいているのが今の現状です。

**内藤委員長：** ありがとうございます。他にございますでしょうか。

工藤委員、お願いします。

**工藤委員：** 勤務関係のことをおっしゃったんですけども、職員の方。一番我々が頭を悩ましてるのが医師の働き方改革でありまして、そのことも書かれたらいいんじゃないかなということを感じました。

全般的にはこの感染症下でありながら、全く良好な経営状態で債務が減っているということで敬服いたしました。

もう一つ、府中市の奨学金をもらって、学校に行ってらっしゃる方が、もう卒業された方っていらっしゃるんですかね。

**多田理事長：** 2名、初期研修中です。

**工藤委員：** フォローアップっていいですか、時々お会いしてお話をされていくというのも大切ではないかと思しますので、よろしく願いいたします。

**事務局：** 奨学金の生徒につきましては、ちょうど先般面談をさせていただきました、初期研修2年目が終わる学生でございました。学生といますか働いてらっしゃるんですけども。今度、専門医研修を4年勤められることになります。

ただ残念ながらこの専門医研修は、府中市で勤務していただくことがその間できないものですから。その後、4年後、5年後以降ですね、長いスパンになるんですけども、研修終了後には、ぜひ府中市の方でお願いしたいということで、本人もそうした意向を持っておられるということでございます。

面談を年に1回から2回重ねながら、コミュニケーションをとりながら進めていきたいと思っております。ありがとうございます。

**内藤委員長：** 細かなフォローアップをされているようです。

あと、勤めてくれるだろうという方をピックアップされてるところもあるのかなと思うんですけど。府中市民病院で働いてくれそうな方。そういうのをやっぱり最初の面接の時に選ばれていると思うんですけど、いかがですか。

**事務局：** ありがとうございます。そうしたことを望んでいるんですけども、実際、

府中市内の方は正直申し上げておりません。市外ですとか、県外の方もいらっしゃると思います、そうした方もですね、ぜひ府中市に来ていただければと、本当に思っております。またその周りの環境がもし必要でしたら、そうしたことも、今後対策を考えたりをしていきたいと思っております。

**内藤委員長：** 他にございますでしょうか。

前田委員、お願いいたします。

**前田委員：** このコロナの中にあつてですね、発熱外来をたくさんお受けいただいているようですし、それから救急を受けているということで市民も非常に皆さん助かっているのではないかと思います。

救急を専門にされてる麻酔科のドクターが常勤になられたということと、それから救急車をたくさん受けているということで、外来の患者さんもたくさん受けていると書かれてありますけども、それに対して、入院患者さんがちょっとなかなか難しいというのは、病棟の閉鎖の話も少しありましたが、このギャップは何か原因としてありますでしょうか。

**多田理事長：** 救急を担う一般病棟は入院数も多くて、1人頭の単価というか、それも外科系の先生、整形外科、それから今度新しく入られた外科の先生などが頑張ってくれてるんで、単価の方も上がっておりません。地域包括ケア病棟については、一部をコロナの病床に転換したということもあって、病棟利用率が少し減っております。

療養病棟が一番苦勞しておりまして、かつては95%ぐらいの利用率だったんですけど、年々医療必要度というのが厳しくなりまして、一番入院数としては、苦戦しているのが運営に現れております。

**前田委員：** あと、コロナの補助金が令和3年度、1億5,000万ぐらいの数が入っているんですが、その前はいくらでしたでしょうか。

**多田理事長：** 令和2年度はかなり少なかったと思います。

**前田委員：** ですよ。おそらく昨年度の方がたくさんコロナの補助金いただいているから、貸借対照表で8,000万近く、もうちょっと頑張っていくことが必要だという話。

それから、順調な経営というか、黒字幅で大変よかったかなと思いますが、一方では、コロナ補助金は今年度いっぱい続くかどうかというのは非常に怪しいところがありますし、昨年度並みにコロナの補助金が入らないという可能性と、それから、電気代とか物価高になっていますけど、これはもう年単位で続きそうだと思いますので、経営に関しては安心せずに引き続きやっていただければなと思います。

**内藤委員長：** ありがとうございます。ほかにもございますでしょうか。

石原委員、お願いします。

**石原委員：** 失礼します。私の方からは、設備投資の関係は今年度何か大きなものがありましたでしょうかということをお伺いしたいのと、もう一つ、さっきの資料の4のところの課題へ記入されてます災害対策というのがあるんですけど、これは何か具体的に、病院で災害のことを対応なさるというのがありましたら、お教えいただければと思います。

**多田理事長：** まず災害対策につきましては、看護部のプロジェクトマネージャが就任してからマニュアルを見直して、いろいろと不備なところもあったのでそこを見直して、かなり細かく決めることをしております。

それから、それを周知するというので、各職員に勉強会などで周知しております。そういう取り組み方です。

それから備蓄も少し足りないものがあったので、これも見直しておるところです。

**小森事務局長：** 投資の関係ですけれども、資料として、参考資料1の11ページ。細かいんですけども、左側のページが附属明細書という標題になってて、右側11ページなんですけれども、ここに固定資産の取得処分及び減価償却費の明細ということで、資料をつけさせていただいて、令和3年度で一番大きな投資と言うと、表のすぐ下のところにある、府中北市民病院の屋上防水工事4,795万円。これが一番大きなもので、あとは耐用年数がきた医療機器の更新とかで、それぞれ府中市民病院、北市民病院、ここに挙げてある機器が更新されております。

以上です。

**内藤委員長：** 他にございますでしょうか。

常勤医師の方が増えたということなんですけど、職員の方も増えてますか。

**福永委員：** 決算報告書を見ると、1億何千万か余ってますよね。参考資料1の後ろの方の決算報告書ですけれども。給与費のところと言うと、職員が減員とあるんですが。

**小森事務局長：** 給与費のところよりもですね、職員は出入りがありますので、それで給与費いろいろ変わりますけれども、人数的にはですね、資料2、事業報告書の3ページの上にですね、大きく(8)職員数ということで、令和2年度末、令和3年度末の常勤職員、臨時職員、派遣職員の増減を記述しております。

これでいくとですね、常勤職員、出入りはありますけれども、増減がゼロ、臨時職員については、9人減、派遣職員についても増減ゼロと、こういう人数になっております。

ただし、入れ替わりがありますので、その関係で給与費が変わってきているところはあります。

**内藤委員長：** 医師が増えれば、業務も増えてくると思いますので、スタッフの方も増やしていかないとなかなか回りにくいのかなと思います。なかなか、人材を集め

るといのは難しいのがありますけども、何とか頑張っていたきたいと思います。

**多田理事長：** おっしゃる通りです。今も看護師さん、そしてリハビリのセラピストが不足しておりまして、一生懸命探しているところです。

**内藤委員長：** 悩みの種ですね。ほかにございますでしょうか。

先ほど石原委員の方から、災害の話がちょっと出たんですけど、府中市民病院では、どういった災害が一番ですか。水害ですかね。

**多田理事長：** 起こりやすいものとしてはそうだと思いますし、それから南海トラフといったことも考えてはおります。

**内藤委員長：** 土砂崩れみたいなものはあまりない場所ですか。

**多田理事長：** 病院が被るということですか。それは、土砂崩れは来ません。それから、水も少し高台なので、水はかぶりません。

**内藤委員長：** 病院の機能の確保は大丈夫ということですか。

**多田理事長：** それは大丈夫とっております。

**内藤委員長：** そこがやっぱり一つ心配なところでもありますので。広島市の病院は、水が出ると機能不全になる病院が多いように思っておりますので。あとは、備蓄とかそういったものは問題ありませんか。

**多田理事長：** はい。

**内藤委員長：** よろしくお願ひします。

ほかにございますでしょうか。ございせんか。

福永委員から、具体的な内容をもう少し盛り込んではどうかということだったんですけども、そういったのは完成版には入りますか。

**小森事務局長：** いえ、もうこの事業報告書は、完成品として府中市に提出しておりますので、今後は令和4年度の、今年度の事業報告書には御意見を参考にさせていただいて、具体的なことを盛り込んでいきたいと思ひます。

**内藤委員長：** はい。よろしくお願ひします。

では、今まで各委員からいろいろ御意見も出ましたけども、総じて特に大きな問題はなかったのかなと思ひますので、府中市の方におかれましては、今の御意見も参考にしながら、評価の取りまとめを行っていただければと思ひます。

そして、最終的な評価結果につきましては改めて各委員にお示しいただければと思ひますので、よろしくお願ひいたします。

~~~~~

内藤委員長： それでは、続きまして(2)の報告事項についてを議題といたします。

『① 令和4年度年度計画』について、事務局から説明をお願ひいたします。

事務局： はい。令和4年度年度計画でございます。資料6でございます。病院機構から提出いただきました令和4年度の計画書を添付しております。

これにつきましては、事前に資料を送付させていただいておりますので、詳細につきましては割愛をさせていただきます。この年度計画書に基づきまして、令和4年度の病院運営が進められてまいります。

以上でございます。

内藤委員長： ありがとうございます。この件について何か御意見はございますでしょうか。

前田委員、よろしくお願ひします。

前田委員： 計画では、府中市民病院の病床利用率92%となっておりますけども、これは例年達成できそうな数字でしたでしょうか。

小森事務局長： この目標なんですけども、毎回指摘をいただくところなんです。実は到底達成できるような利用率ではないんですけれども、4年で1回、中期計画を立てるんですけれども、中期計画を立てるときに、市からいただいた中期目標、経営成績、経常収支比率を100%達成しようと思うと、どうしてもですね、病床利用率のところをぎりぎりいけるところまで上げないと、ちょっと計画が立てられないというところがありましたので。申し訳ないんですけれども、到底達成できるような数字ではないと思いますが、経営も病床利用率だけではないので、そのところについては、他の部分でカバーしていければなというふうに思っています。以上です。

内藤委員長： 他にどなたかご意見ございますでしょうか。

石原委員、お願ひします。

石原委員： 今、結構コロナウイルスの患者さんの数が府中市も増えているわけなんですけれども、やっぱりそれはさっきの病床利用率といった入院の患者数も大きく影響がまだ続いているわけでしょうか。現状の入院の人数というところで教えていただければと思いますが。

多田理事長： コロナ患者の入院数ということでしょうか。

石原委員： いえ、コロナウイルスの感染で入院が少なくなるっていう影響があるのか。

多田理事長： 以前は病院離れというか、病院に来るのが怖いというふうなことで、来られなかったという話は、できるだけ入院したくない。どちらかなという時は、外来で治療して欲しいというふうなことがかなりありまして。今はもう少なく、入院を勧めたら何とか外来でできませんかと。できれば入院した方がいいんだけど、という場合は無理して、毎日でも来ますからと言われて、そういうふうなことになったりする場合があります。ですから、以前よりはそういった影響が少なくなってきたように思いますが、やっぱりいまだにあると思います。

それから職員が感染をしたりとか、そういった場合にその病棟の出入りを禁止するというか、新規の入院を受け入れないというようなこともあったりと。それも直

接すぐに響いてまいります。

工藤委員： 多分、大きいのは二つ目の診療制限がかかった時のっていうのは大きい
です。それはどこの病院も同じです。

内藤委員長： ベッド数に関してはあまり変わらないんですかね。病床数とか、コロ
ナのために専用病床を作って、減ったとかそういうことはあまりない。

多田理事長： 専用病床を作った分だけは、コロナが少し落ち着いてきたときはもう
ガラガラになってしまいますけど、そこに一般の人を入れるかという、そういう
ことも考えたんですけど、ちょっと入れずに様子を見ようというふうなことで、そ
こはちょっとどうしても空いてしまうということがあります。

内藤委員長： それも病床稼働率が低くなるということでしょうか。

多田理事長： はい、低くなります。

内藤委員長： 石原委員、よろしいですか。

石原委員： はい、ありがとうございます。

内藤委員長： この先またコロナがどうなるかわからないので、どういう予定を立て
るかって難しいと思うんですけども、府中市民病院として、令和4年度こういう
ことをやっていきたいなとか、こういうことに力を入れてみたいなということがあ
れば。

多田理事長： 例えば府中市民病院としては、救急の急性医療から療養の慢性医療、
そして予防医療まで含めた幅広い医療を地域に提供して、また、地域の方々が少し
でも幸せに、そして健康寿命が伸びるような、そういう医療につなげていきたいと
いうふうに考えています。

内藤委員長： それは、骨粗鬆症に力を入れることとか、そういう。

多田理事長： 骨粗鬆症もだし、それから誤嚥性肺炎を防ぐとかいうことにもなりま
すし、いろいろと。心不全とか、そういったことについても、少しでも急性増悪を
防ぐようなことを、1例1例、一人ひとりに向き合っていきたいと思います。

内藤委員長： 府中市民病院は、かつて地域医療構想で、地域に同じような病院があ
るからということで減らせというようなことを、病床を削減しろというようなこと
を言われたんですけども。今、コロナがあって、必要な病院であるという認識を持
っていただけることになったと思いますし、これからもぜひ頑張っていただければ
と思います。よろしく申し上げます。

多田理事長： ありがとうございます。

内藤委員長： 他に御意見ございませんでしょうか。よろしいでしょうか。

それでは、以上で本日の議題はすべて終了いたしました。委員の皆様、ほかに何
かございますか。

委員より： 「特にありません」 の声あり。

内藤委員長： よろしいでしょうか。それでは、委員の皆さん御協力ありがとうございました。

進行を事務局にお返しいたします。

~~~~~

**進行：** 内藤委員長、大変ありがとうございました。また委員の皆様方におかれましても、活発な御議論をいただき誠にありがとうございました。

最後に、閉会に当たりまして、石原副委員長様から御挨拶をお願いしたいと思います。よろしく願いいたします。

**石原副委員長：** はい、失礼します。本日はお忙しいところ、病院機構の評価委員会に皆様方お集まりいただきまして、ありがとうございました。

それから、病院長をはじめとするスタッフの方々には、先ほどからコロナウイルスの話題にもありますように、病院を府中市に維持していただくということが大変ありがたいということを、このコロナ禍の中で感じております。どうぞ、これからもよろしく願いをいたします。

地域にこの病院機構が10年経つというお話がありましたけれども、先ほど内藤先生からありましたように、府中市に入院ができる施設がなくなってしまうという危機感が当時あったように思います。

それが、広島大学、岡山大学の両大学から御支援をいただいて、病院機構、独立行政法人という形で、その機能を維持できているということは大変貴重だと思いますので、ぜひ市民のためにこれからもよろしく願いしたいというふうに思います。

本日はどうもありがとうございました。

**進行：** ありがとうございました。

それでは、以上をもちまして、令和4年度地方独立行政法人府中市病院機構評価委員会を閉会とさせていただきます。

今後、引き続き府中市或いは、府中市病院機構への御支援をよろしく願いいたします。

本日は誠にありがとうございました。

午後8時30分

~~~~~